

## 護衛艦『いずも』で海上自衛隊を丸ごと体験



応急工作員の装備体験



歌姫三宅2等海曹と

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山2空尉）は、12月5日（日）に海上自衛隊横須賀地方総監部で行われた護衛艦『いずも』艦内コンサート及び見学会に自衛隊に興味がある大学生3名を招待した。当日は12月の風がやや冷たかったが、横須賀基地へ向かう車内では護衛艦『いずも』を見学できる事で大いに盛り上がった。

横須賀基地に到着すると、目の前に現れた護衛艦『いずも』に三人は目を奪われ「真近で見ると迫力が凄く過ぎますね」と、予想以上の大きさに驚愕していた。喜びを隠しきれない笑顔で興奮気味に艦内のコンサート会場である格納庫へと向かった。海上自衛隊横須賀音楽隊によるコンサートは、クリスマスソングのメドレー演奏と海上自衛隊の歌姫三宅由佳莉2等海曹が「炎」を熱唱したりと、心に残るコンサートであった。アンコールでは、軍艦マーチが演奏され見学者たちから称賛の拍手が鳴りやまなかった。

コンサート終了後は、格納庫内でグループに分かれ『いずも』の概要説明や、搭載ヘリの紹介、隊員による各職種の説明があった。艦内で発生した火災や浸水に対応する海上の消防士と呼ばれる応急工作員の仕事については、救急救命士を目指している学生たちの興味を引いていた。応急工作員が着用するヘルメットやボンベを実際に身に付ける貴重な体験もあり、「思っていたより重たいです。気持ち引締めます」と目を輝かせていた。その後は航空機用昇降機に乗り込み、昇降機の上昇する速さや広さを体感しながら飛行甲板へ移動した。飛行甲板に到着すると、滑走路の長さや海面からの高さに驚いていた。艦内見学後は、現役の隊員と懇談があり「どこかカレーが一番美味しいですか」「先任伍長ってどんな仕事をしていますか」「胸に着いている徽章は何ですか」等、様々な質問が飛び交い、年齢が近い隊員との懇談は親近感があり、海上自衛隊を身近に感じてもらえる時間となった。

帰路の車内では「消防志望ですが、自衛隊も候補になりました」と嬉しい感想もあり、様々な体験を通して海上自衛隊をアピールできた一日となった。市ヶ尾募集案内所は、「今後も様々なイベントを最大限に活用し、自衛隊に対する更なる理解の促進を進めていく。そして、一人でも多くの志願者を獲得し、入隊へと導いていきたい」としている。



護衛艦『いずも』



飛行甲板見学

## 「防災学習（災害時に自分たちが出来ること）」を支援

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻1陸尉）は12月7日（火）、星が丘小学校（相模原市中央区）の総合学習として「防災学習」を支援した。これは、星が丘小学校から要望があり、小学6年生140名を対象に実施したもので第4施設群の支援を受け、自衛隊の災害派遣活動講話と体験実習を実施した。

最初に第4施設群広報幹部より自衛隊の災害派遣活動について説明を行った。生徒はこれまでに被災の経験はないが、3年前の台風19号による相模原市緑区の災害派遣活動の話には、真剣に聞き入っている生徒も見受けられた。

屋外では、天幕（テント）、偵察用バイク、救急車、中型トラックが展示され体験実習では救急法で二本の竹と毛布を利用した担架の作成・運搬、そしてロープ結索では結び方をゆっくり丁寧に説明すると、生徒達は真似をしながら真剣に取り組んでいた。

最後に第4施設群2科長から「私たちは国民の命を守るのが仕事です。皆さんもまずは自分の命は自分で守る事を意識して、今日受けた教育を少しでも活かして欲しい」と締めくくった。

生徒からは、「自衛隊の仕事の大変さが分かりました」「日本を守る自衛官になりたい」など、自衛隊の活動に対する慰労の言葉が多く聞かれた。

相模原地域事務所は「今後も地元地域の先生となって、学校からの要望に前向きに対応するとともに、連携を深め総合学習を支援をしていきたい」としている。

